

トイレをきれいに保つために

仲井真中学校 2年 日野 心春

なんと、仲井真中のトイレが、改修工事をすることになりました。しかも、トイレフロアの乾式化と洋式便器です。去年からずっとトイレをきれいにしてほしいと提案していたのでとても嬉しいです。トイレ改修工事の関係者の皆様、本当にありがとうございます。

せっかく第一期、第二期を合わせて八月から一月までトイレの工事があるので、このまたとない機会に私達生徒も関わったほうが愛着心を持って今後トイレをきれいに保つことができるのではと思いました。

理由は、トイレは子どもが一日に何度も使う場所で健康・精神面で重要になるとともに改修して明るいトイレに生まれ変わることで、きれいに使用するようになったり、生活マナーが向上したりするなど教育効果も大きいことが指摘されていると日本教育新聞(二〇二一年一月二十五日掲載)でわかっているからです。

更に、学校のトイレ研究会の(トイレを核とした教育)と(参加型トイレ作り)では、毎日使うトイレには、子どもたちにとって様々な学びの素材があると考えられています。トイレを学びにつなげることで、子どもたちに新たな気づきを与え、学校生活が豊かになるとともにESCU(持続可能な開発のための教育)の推進やSDGs(持続可能な開発目標)の達成に不可欠な質の高い教育の実現につながるそうです。また、参加型トイレづくりで共通して見られる効果は、そのトイレが大切に扱われることが

わかっています。実際に私の体験でも、小学生の頃、トイレが汚かったので、我慢して、トイレに入ることができなくて、学校に行くのが怖かった事がありました。しかし、工事をして、きれいに明るくなったなら、トイレに入ることができるようになり、学校に行くのが怖くなりました。

そのような実体験もあり、学校のトイレは学校生活を送る中でかなり重要ではないかと考えるようになりました。

改修後の新しいトイレをこれから先もきれいに保つにはどうしたら良いかと自分なりに考える中で、きれいに保つには予算や手間がかかるという意見もあるかもしれないと考えました。そこで試行錯誤して、私が思いついた参加型トイレの方法は、自分たちが使用するトイレがどういうふうに行われていくのか工事期間中にクラスごとに見学したりすることで自分事として捉えてもらったり、生徒が書いたイラストや風景の写真をトイレに飾ったりすることです。

工事期間中のトイレ見学は総合の時間を活用したり、イラストや写真に関しては、仲井真中にはイラスト同好会という素晴らしい同好会があるので、イラスト同好会の方が書いたイラストをアートとしてトイレに飾ったり、また風景の写真を撮ることを趣味としてしている生徒や職員にお願いして、撮ってきてもらった写真を印刷して作品として飾ることで楽しみながら、きれいなトイレを維持できるのではと思いました。また、習字の得意な生徒に格言を書いてもらうのも素敵だと思います。実際に私の通っていた小学校では、写真を撮ることが趣味の音楽の先生がトイレの個室のドアに風景の写真にポジティブな言葉が書かれた紙を貼っ

ていました。そのおかげでトイレがずっときれいに維持されました。

このことから、私達生徒もトイレのことに楽しく関わる事で愛着心が湧き、いつまでもトイレをきれいに保てるのではないかなと思いました。そのために仲井真中でも、新たにトイレをきれいにしよう会（仲中トイレ研究会）を発足していきたいと考えています。先生方や学校職員の皆さん、全生徒の協力をお願いしながら、実現に向けて頑張ります。